

同一人物の適性検査結果に関する分析

要約

2016年度卒業年次生（大学：4年生，短期大学部：2年生）の適性検査の結果を、入学時（1年生）の結果と比較。多くの学科で卒業年次生の得点が、入学時を上回る結果であった。またその差分において、統計的に有意差が認められた項目数は、人間福祉学科：9項目、子ども学科：8項目、理学療法学科・経営学科：7項目、幼児教育学科・社会福祉学科：4項目、であったことから、学生の能力向上に大学の学習環境が寄与したことが伺える。

適性検査の概要

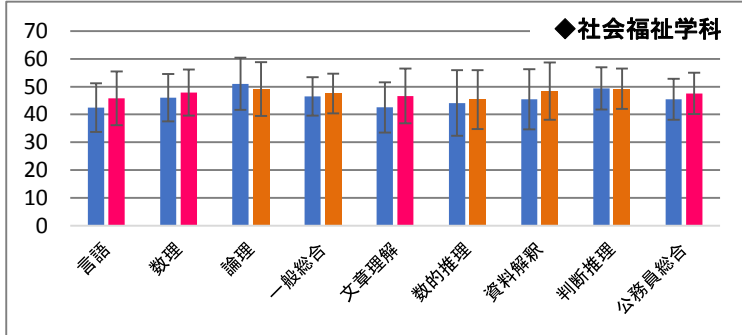
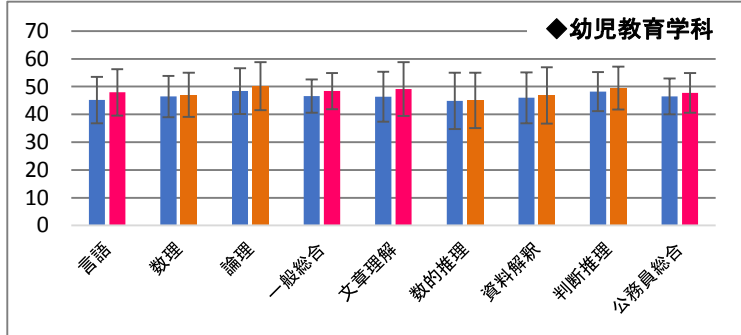
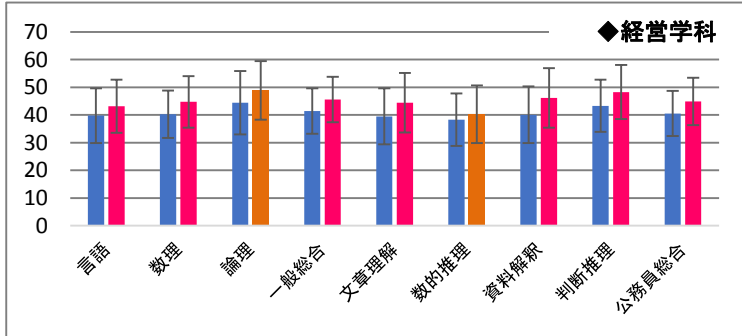
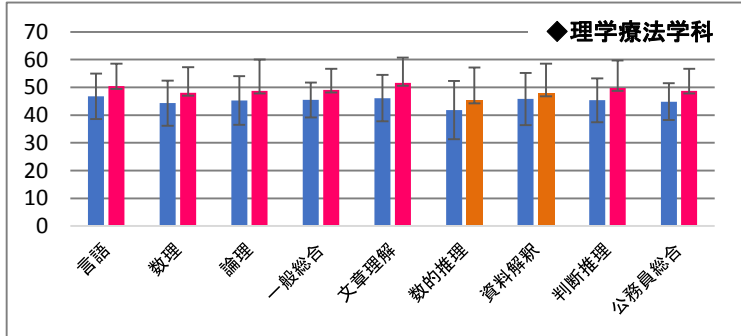
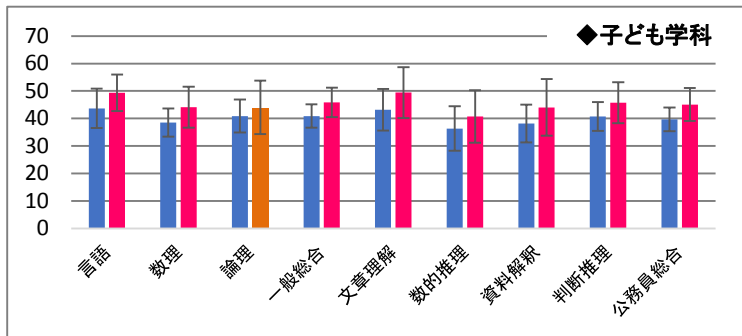
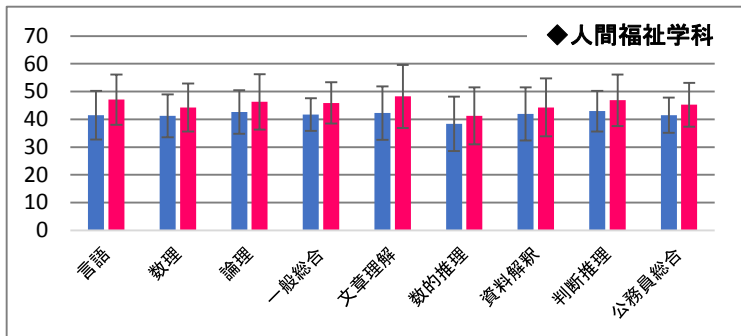
今回の適性検査では、基礎能力における思考特性（文章読解、語い力、数的推理、資料解釈、空間把握、論理）と作業特性（速度、正確度）を測定。これらの結果は、一般企業の採用試験時に問われる項目（言語、数理、論理、一般総合）や公務員試験での一般知能分野（文章理解、数的推理、資料解釈、判断推理、公務員総合）の得点として算出され、これを分析対象とした。

分析の概要

(1) 同一人物において、各学科卒業年次生の2016年度の適性検査結果と1年次（入学時）の検査結果の平均点を比較。

表1. 各学科の適性検査結果【卒業年次vs.1年次】（縦軸：平均得点、横軸：基礎能力的特性）

■ 1年次（入学時）の得点， ■ 卒業年次に有意差が認められなかった得点， ■ 卒業年次に有意差が認められた得点



※有意差は対応のあるスチューデントのt検定（両側、有意水準5%）による。
 ※ データ数は全ての受験結果から対応するデータがあるもののみを抽出（一方の学年が欠損しているデータを除外）。